

## 北海道新聞

## フットパス全国へ広がれ

【黒松内】風景を楽しみながら歩く散策路「フットパス」を普及させようと、後志管内黒松内町など全国四市町とNPO法人三団体は七日、初の全国組織「日本フットパス協会」を設立する。全国の自治体や団体に参加を呼びかけ、コース整備の情報交換や案内標識の

統一化を図り、フットパスの全国的な振興を目指す。設立総会は同日正午に東京都町田市文化交流センターで開催、記念討論会も行う。

フットパスは英国発祥で、生活道路として利用されてきた小道や私有地を開放し、訪れる人が自由に歩くことができる。道内では

## 黒松内町など組織設立

二〇〇二年ころから普及し、現在は三十地区に約百コースがある。北限のフナエ林で知られる黒松内町は〇四年からフナエ林を通るコースなどを整備している。協会設立に参加するのは黒松内町のほか、約十年前からフットパスの整備を進める先進地の町田市や、山梨県甲州市、山形県長井市とNPO法人。長井市で〇

六年に開かれたシンポジウムを機に設立準備を進めてきた。協会は今後、英国との連携事業や各地のフットパスを巡るツアーを計画している。事務局は当面、町田市のNPO法人「みどり」が務める。黒松内町企画調整課は「フットパスは資源を有効活用する地域活性化策。全国に広めた」と話している。

## ■フットパス協会発足

地域の風景を楽しみながら歩く散策路「フットパス」の普及を目指し日本フットパス協会(仮)の設立総会が七日、東京都内

で開かれた。後志管内黒松内町と札幌のエコ・ネットワークを含む全国の自治体や市民団体計十一

団体が参加。フットパスの知名度アップなど活動方針を決めた。

総会に続くシンポジウムではフットパスを活用した活動を紹介し写真展、エコ・ネットワークの小林繁代表は上川管内上富良野町などのコースを例に「緩やかな道が多く、地元の特産品を味わい、歴史が学べる」と強調。町とともに遊歩道整備を進める黒松内町フットパスボランティアの新村(にいかわ)幸夫会長は、鉄道の枕木を使った案内板整備などの取り組みを報告した。

